

泉南市教育委員会令和元年第1回臨時会会議録

(1) 日時・場所

令和元年8月27日(火)

午後1時30分 開会 午後5時20分 閉会

埋蔵文化財センター 講堂兼視聴覚室において

(2) 教育委員会出席者

古川 聖登	教育長
片木 哲男	教育委員会委員(教育長職務代理者)
藪内 進	教育委員会委員
柳澤 泰志	教育委員会委員
太田 淳子	教育委員会委員

(3) 事務局出席者の職氏名

岡田 直樹	教育部長
稲垣 豊司	教育部参与
阪上 浩之	教育部次長兼人権教育課長
桐岡 秀明	教育総務課長
新納 孝啓	指導課長
猪鹿倉 哲雄	指導課主幹

(4) 休憩・遅刻等について

休憩 午後3時25分から午後3時40分まで

(5) 会議録署名者の氏名

古川 聖登
太田 淳子

泉南市教育委員会 令和元年第1回臨時会 議事日程

令和元年8月27日(火) 午後1時30分 開会

埋蔵文化財センター 講堂兼視聴覚室

日程番号	議案等の番号	件名
日程第1		開 会
日程第2	議案第1号	会議録署名者の指名
日程第2	議案第1号	令和2年度使用教科書の採択について
		その他

午後 1 時 30 分開会

○古川教育長 ただいまから、泉南市教育委員会令和元年第 1 回臨時会を開催いたします。出席委員が過半数であり、定足数に達しておりますので、会議は適法に成立いたしました。

○桐岡教育総務課長 それでは、日程に入る前に本日傍聴希望の方が 7 名いらっしゃいますので御報告いたします。

○古川教育長 ただいま傍聴者について報告がございました。傍聴者に入室していただいでよろしいでしょうか。

御異議ございませんので、傍聴者に入室していただきます。

(傍聴者入室)

これより日程に入ります。

日程第 1、会議録署名者の指名を行います。本日の会議録署名者は、教育委員会会議規則第 1 2 条第 2 項により、教育長のほかに教育長において太田委員を指名いたします。

次に日程第 2、議案第 1 号、令和 2 年度使用教科書の採択についてを議題といたします。

事務局から内容の説明を求めます。

新納指導課長。

○新納指導課長 はじめに、今回採択いただきますのは、令和 2 年度において使用する小学校の 13 種目と中学校の道徳以外の種目となります。教科書は、小中学校の主たる教材として使用義務が課せられており、非常に重要な役割を果たしておりますので、市内の児童にとって最適な教科書を選定いただくということは、非常に重要なことだと考えております。

それでは、本日の資料なんですけれども、まずは選定委員会からの意見書、2 番目が推薦書の資料で A 3 サイズのもの、3 番目が、A 4 サイズの調査研究資料、最後に教育委員会規則、要領、採択の基本方針の資料になります。ございますでしょうか。

それでは、意見書をごらんください。

1 ページ、「はじめに」をごらんください。

泉南市教育委員会規則にもありますように、泉南市教育委員会規則第 2 条に規定されているとおり、選定委員会は、義務教育諸学校の教科用図書の調査及び研究を行い、教育委員会に対して意見を述べるものとする事となっており、この規定に基づき作成した意見書になります。

選定委員会では、泉南市教育委員会規則第 7 条の規定により、小学校の各種目において 3 名の調査員を置き、1 か月以上にわたり、専門的な教科書の調査研究を行いました。

意見書の 2 ページに、その選定委員会の経緯がございます。これまで 4 回の選定委員会を開催し、慎重に審議を重ね、意見書を取りまとめたというところでございます。

3 ページからが、第 4 回選定委員会の内容となっております。小学校の各種目について数種類ある発行者から 1 者もしくは 2 者の推薦をいただいております。推薦経緯につきましては、どのような経緯で推薦されたのか、また推薦されなかったのかといったところを推薦理由や問題点も挙げて記載されております。

それから、16 ページには中学校の道徳以外の種目につきましての意見が取りまとめられています。最後は、選定委員会の名簿となっております。

意見書についての説明は以上です。

○古川教育長 選定委員及び各教科の調査

員の皆様におかれましては、御多忙の中、詳細な御検討と資料の作成をいただき、まことにありがとうございます。教育委員会を代表して心より御礼申し上げます。

説明内容について、御質問はございませんか。

続いて、教科用図書採択についての審議に移ります。

さて、これから教育委員会として泉南市の子どもたち、先生方にとって最適な教科書を採択していくわけですが、その際参考にしていただくのが選定委員会意見書となります。選定委員会の意見書、調査員からの推薦資料も参考にしていただきながら御審議をお願いいたします。ちなみに、推薦されなかった教科書についても推薦資料に掲載していますので参考にしてください。

まずはじめに、国語科から審議を始めます。国語科では、選定委員会から光村（光村図書出版株式会社）が推薦発行者となっております。なお、会社の名前は省略で敬称略させていただきます。御了承ください。選定委員会が光村を推薦した理由について、事務局から説明をお願いします。

○新納指導課長 国語科につきまして、意見書の3ページになりますけれども、選定委員会で主に2つの点で議論しております。

1点目につきましては、各学年で段階的に学習が進んでいくようになっているか、1年生から6年生までの系統性があるかという点です。

2点目は、新しい学習指導要領にもある子どもたちが主体的に学習できるかということと、児童が対話するといった言語活動が充実しているかということについて議論しております。

光村が推薦されているんですけども、1点目の段階的に学習が進むのかとか系統性といったことにつきまして、例えば光村

の6年生の教科書の132ページの右下を見ていただきますと、「5年生の学びを確かめよう」とか「一番大事なものは」といったことの下に7ページ、94ページなど、ページ数が示されているんですけども、前の学年で学習したこととか、6年生で学習する同じようなもの、テーマの学習内容を振り返るといような形の案内が出ております。

説明文についても前に学習した範囲を少し振り返って、6年生の段階での説明文というような形で学習が段的に積み上げられているというような工夫がされております。また、5年生の学習内容と結びつけるような系統性といったことも子どもたち自身がわかるような仕組み、工夫をされておられるというところがございます。

それから46ページ、「笑うから楽しい」という単元になっているんですけども、46ページ、47ページは、本来の学習に入る前の準備段階の教材になりまして、上にありますように、はじめ、なか、おわりと一番上のページに示されているんですけども、この文章全体が3段で構成されているということを学習前に練習できるようになっており、視覚的にわかりやすいところがございます。

めくっていただきまして、48ページからが本題の学習になっております。54ページをごらんいただくと、「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」といような形で、これも視覚的にわかりやすくするような仕掛けがしてありまして、子どもたちが段階的に学習する工夫がされております。

2点目のポイントは、子どもたちが主体的に学習できたり、対話するような活動ができやすいかということにつきましても、今見ていただいている54ページ、55ページのような、「とらえよう」「ふかめよう」

「まとめよう」「ひろげよう」というように、学習の流れというものが非常にわかりやすく表示されているということでございます。

またその中の「ひろげよう」のところで、友達の発表を聞いて感じたことを伝え合おうというような形で対話的な活動がしやすいように学習の流れが構成されているという工夫がございます。

このような主体的な学びや対話についての活動が他者の教科書にもございます。例えば、6年生の東書（東京書籍株式会社）の教科書をごらんください。43ページを見ていただきますと、青い印がついているところからが学習の手引きというところになるんですけれども、そんなふうにして筆者の考えを確かめようとか筆者の論の進め方を確かめようという形で学びを深めることができるように段階的に示されているというところがございます。残念なのは、次のページをめくったところに続いていくというところがありまして、子どもたちにとっては学びを進めていく上でちょっと見にくいかなというところがございます。

それから、教出（教育出版株式会社）の6年生の下の教科書の16ページにも同じような学習の流れを紹介しているようなページがございます。見開きで「確かめる」「考える」「深める」「広げる」というような形で見やすくなっておるんですけれども、調査員の先生方から出てきた意見として、その下段のところ子どもたちの絵があるところですが、「同じことが全ての人に同じように受け取られていないかもしれない、どんなときにそうなるかな」という言葉が出てきますけれども、こういった子どもの声で考えていく上での例が示されているんですけれども、これが多様な意見が出にくくなるというマイナス面があるんじゃないかという声がありました。

それから、学図（学校図書株式会社）の

4年生の教科書の61ページの左端をごらんください。④番、物語の終わり方について話し合おうというページの使い方はしているんですけども、『この物語は青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました』という文で終わります。この文があるのとはどう違うか話し合おう」という問題の提示のされ方があるんですけども、子どもたちにとっては少しわかりにくい問題の提示の仕方だなというところがございます。

各者の教科書を比較しまして光村が最もすぐれているんじゃないかという意見をいただいているところがございます。

以上です。

○古川教育長 それでは、御質問等はございますでしょうか。

藪内委員。

○藪内委員 意見書におきまして、教出の教科書について各先生方が書いてらっしゃるんですけれども、多様な意見が出にくいのではないかなと指摘されております。その点についてもう少し詳しく説明していただけますか。

○新納指導課長 先ほど教出の6年生の16ページを見ていただきますと、子どもたちの意見として3番目に女の子の絵がありますけれども、「私は次の二つの言葉が要旨に関係すると思う。自分だけの心の世界がある。」一人きりの自分という言葉が出てくるんですけれども、このような形で例が示されますと、どうしても子どもたちというのはこの部分に引っ張られてしまうという面がありまして、子どもたち自身が自分で感じた思いを出しにくくなってしまい自由で多様な意見が出にくくなってしまふようなところがあるなというところがございます。

す。

○古川教育長 ほかに御質問はございませんか。

柳澤委員。

○柳澤委員 順序を追って組み立てていくという形の中では、学習していく工夫が光村がされているのかなという気がいたします。

○古川教育長 ほかに、御意見でも結構です。どうぞ、御発言ください。

片木委員。

○片木委員 私は光村の教科書を見て、子どもたちにとって見通しが立ちやすく、しかも学びやすくなっているんじゃないかなという気がいたしました。

○古川教育長 はい、ありがとうございます。そのほかにもございませんか。

太田委員。

○太田委員 振り返りという部分では、子どもたちの学びが広がる工夫をされているなと私が感じたのは、東書、学図、光村だったんじゃないかなと思います。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、国語科といたしましては、光村の教科書という御意見が多いように感じられますので、光村の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、国語科といたしましては、光村図書の教科書を採択いたします。

次に、書写の審議に移ります。書写は、

東書と日文（日本文教出版株式会社）が推薦発行者となっております。選定委員会が東書と日文を推薦した理由について、事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 書写は、東書、学図、教出、光村、日文の5者がございます。

選定委員会では、東書と日文が推薦されております。選定委員会で議論されたポイントにつきまして、1点目は、毛筆指導のところでございます。これが先生方にとって教えやすく、子どもたちにとってわかりやすいものになっているかということ。

2点目は、国語と同様、主体的、対話的な活動ができるようになっているかという点でございます。

まずは毛筆指導につきまして、東書の6年生の教科書の10ページ、光村につきましては6ページ、日文については10ページを見ていただきますと、左側に手本が示されておりまして、その右側のページに朱書きで、特に筆先の動きがわかりやすいように示しております。

同じく教出も6年生の教科書をごらんいただきたいのですが、9ページ、毛筆指導の最初の部分に手本が示されておりまして、ページをめくっていただきますと、朱書きで示しております。

朱書きとお手本が両方同時に見られる方が子どもたちにとっては見やすいのかなと思います。また教出につきましては、手本で朱書きがないところも一部ございます。

それからもう一点、学図なんですけれども、学図では筆先の動きがわかるような朱書きされているものがなく、毛筆指導につきましては朱書きがある方が使いやすいんじゃないかなというところなんです。

2点目の主体的また対話的な言語活動ができるかというところにつきまして、東書

の10ページ、に「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」と虫眼鏡、筆、鉛筆みたいなマークがあるんですけども、こういった流れで教科書に書き込みながら学習を進めることができ、左下に「ふり返って話そう」というところがございまして、書写の授業の中でも気づいたことを友達と交流するとか話し合う活動が取り入れられているという工夫がございまして。

日文につきましては、先ほどの10ページを見ていただきますと、ここにも1番がカエルの印で「考える」、2番が亀の印がありまして「確かめる」、3番がイカの印で「生かす」というものを入れながら学習課程を3段階で進めていくという設定をしております、子どもたちの学習の見通しが立ちやすいという特徴がございまして。

学図の6年生の教科書の29ページ、ここでも「生かして書こう」ということがテーマになっているんですけども、一番左端に「ふり返ろう」というところがあります。与えられているテーマが自分の好きな歌詞を書こう、その字形を整えて書いているのかなと字形を整えて書こうと、ポイントを置いて示されているんですけども、残念なことに歌詞を書くところが教科書の中にはございませんでした。そういったところが授業する中では別に用意しなければいけないので、その辺りが残念なところがございまして。

それから光村ですが、6ページの朱書きの下の「大切」というところに、双子の絵がございまして、1番、2番、3番ということで、段階的に学習するためのヒントが書かれてございまして、振り返りとして段階的に学習できる工夫がされてございまして。

教出につきましては、そういう学習のめあてと振り返りといったことがしっかりと出てございまして、子どもたちにとっては学習の見通しが立ちやすいという工夫がされ

てございまして。
以上です。

○古川教育長 御質問はございせんか。
片木委員。

○片木委員 意見書の随所に左ききの鉛筆の持ち方の表記が見られないという表現があるんですけども、実際教育現場でどんな影響が出るのかをお聞きしたいと思います。

○新納指導課長 書写の勉強を始めるに当たりまして、鉛筆の持ち方というのは最も、基礎、基本の部分になるかと思っております。椅子にしっかりと姿勢よく座るといったことと同様に非常に大事なところになるのかなと思っております。そういう意味では子どもたちに手本がしっかりと示されているというのは大事なことかと思っております。一方最近左ききの子どもたちがふえているのかなと思っております。以前ですと、小さい間に右ききに直すということも多かったように思うんですけども、最近はそういうことも少なくなっているのか、左ききの子どもというのはいらっしゃるかなと思っております。左ききの子どもにとっては鉛筆の持ち方、握り方が示されていないと、お手本がないということになりますので、マイナスになるのかなと感じます。左ききの教員がおれば、こうなんだよと見せられるかもしれないんですけども、右ききの教員にとっては、それはできませんのでそういったものがあれば左ききの子どもたちにとってはいいのかなと思っております。

意見書にありますように学図・教出・光村、日文につきましては、左ききの部分についてのお手本などの表記はございせん。東書については、1年生の4ページ、5ページにあるように、写真で左ききの鉛筆の正しい持ち方がしっかりと紹介されているというところがございまして。

○古川教育長 ほかに御質問はございませんか。

なければ次に、御意見をいただきます。

藪内委員。

○藪内委員 先生方の意見書を拝見したんですけれども、この毛筆指導で児童にとって本当にわかりやすく工夫されているなど思えるのは、東書、光村、日文がいいかなというふうに推薦されています。また、先生にとっても教えやすいかなと思います。

○古川教育長 ありがとうございます。そのほかにご覧いませんか。

太田委員。

○太田委員 どの教科書も主体的に学習できるように工夫されていると思うんですけれども、私が特にすぐれていると思うのは東書と日文かなと思います。

○古川教育長 ありがとうございます。そのほかにご覧いませんか。

柳澤委員。

○柳澤委員 先ほどの御回答でもありましたように、ちょっと余談なんですけれども、最近テレビでも食レポなんかでタレントさんでも左ききの方がよく見受けられます。学校訪問に行かせていただいても左ききのお子さんがいらっしゃいます。そういう意味では、基礎の段階で左ききの鉛筆の持ち方というのは子どもたちの指導には非常に必要なかなという気がいたしますので、こういったことを掲載されている点でも東書がいいのかなという気がいたします。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、

う御意見が多いようですので、東書の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、書写といたしましては、東書の教科書を採択いたします。

次に、社会科の審議に移ります。社会科では日文が推薦発行者となっております。選定委員会が日文を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 社会科につきましては、東書、教出、日文の3者が発行者になります。選定委員会では日文を推薦されております。

議論のポイントは、2点でございます。

社会科ということで1点目は、資料の活用について、効果的に調べたり、表現しやすいかということ。2点目は、主体的・対話的な活動というところになります。

まずは1点目、資料の効果的な活用、また調べたことを表現するといったことについての工夫という点なんですけれども、まず日文の3年生の教科書の7ページをごらんいただきますと、この教科書の使い方といったことがひとまとめに紹介されています。教科書の中のいろいろなコーナーということなんです、そこにありますように「学び方・調べ方コーナー」とあります。「見る・調べる」「読み取る」「表現する」、の3項目で構成されておりまして、資料を使いながら社会科の見方、考え方を身につけていけるという工夫がされております。

具体的には、ページをめくっていただきますと、単元名が載っています、「私たちが住んでいるところ」になるんですが、さらにめくっていただいて、12ページ、13ページの右上に見る・調べると少し色を変え

て紹介されているところがあるんですけども、こんな形で学習計画の立て方のヒントが掲載されておりまして、子どもたちにとって、この資料を活用して学んでいくということがわかりやすくなっております。

続いて東書の3年生の教科書の最初のページを見ていただきますと、同じように一番右端に「まなび方コーナー」といった形で紹介されておりますけれども、「見る・聞く・ふれる」、「読み取る」、「表す・伝える」の3つの段階で学習が構成されています。教科書自体もこの3項目で順に学習できるように構成されておりまして、同じように資料を使う工夫がされております。

続きまして2点目のポイント、主体的・対話的に学習できるかというところなんですけれども、主体的に学習するという上でやはり子どもたち自身が学習内容に興味を持って取り組めるかどうか非常に大切なところになるか思います。3年生、4年生というのは、身近な地域から勉強を進めていくんですけども、日文では自分たちが住んでいる大阪が教材に取り入れられております。3年生の教科書で言いますと155 ページ、大阪のまちの変化といったことがテーマになっております。同じく日文の4年生の教科書では44 ページ、大阪府に住む人々が使う水をテーマに、特に大阪の水がどんなふうに使われているのか、どこから来ているのかといったように、水を通して学習を進めていくということになっておりまして、子どもたちにとって非常に身近なテーマかなと思います。

同じく日文なんですけれども、5年生の教科書の182 ページに大阪の企業のことが紹介されていたり、248 ページには大和川をテーマにしているというところがございます。地元の大阪を教材に取り上げているというところが特徴にあります。一方、東書、教出につきましては、大阪を中心的に

取り上げていないというところがございます。子どもたちにとっては自分たちの身近なものとして学習ができるという特徴が日文にはあるというところがございます。

以上です。

○古川教育長 それでは、御質問はございませんか。

太田委員。

○太田委員 意見書の中で、東書において文字の書体が違うということを使いづらいついがあるんですけども、そのあたりは具体的にどういうところなのか説明していただけますか。

○新納指導課長 5年生の教科書の56 ページをごらんください。調査員から指摘がございまして、北海道の北の字なんですけれども、この字体について指摘がございました。少し独特な字体になっていて実際に子どもたちが使う、さっきの書写にあったように、こんなふう書きなさいと指導する字と形が違うんですけども、どうしても印刷する上でのフォント、字体の特徴のかなというふうに考えます。これは東書だけではなく、他者の教科書でも北の字を比べますと、ブロック体を使っておられるときに同じような形で子どもたちが実際硬筆、毛筆で書く字とは字体がちょっと違うんです。これは印刷とかフォントの特徴ということで、いたし方ないところのかなと思います。実際に学校で指導する際には、ふだん教えているほうの字体を書きなさいよという指導をしていただく必要が出てくるのかなと思うんですけども、これはどの会社の教科書を使っても必要になってくる部分なのかなというふうに考えております。指導する上での配慮でクリアできる部分ではないかなと考えております。

新納指導課長。

○古川教育長 ほかにございませんか。
なければ次に御意見をいただきます。
柳澤委員。

○柳澤委員 東書と日文で、資料が効果的に活用する点では工夫されていると思います。ただ、日文は特に姫路であるとか関西近辺の身近な土地を取り上げられているので、例えば、社会見学とかそういう点から見ても先生方が非常に教えやすいのではないかなという気がいたしますので、日文がよいと思われま。

○古川教育長 ほかにございますか。
片木委員。

○片木委員 まず自分たちが住んでいる大阪という身近な地域を学ぶことが子どもたちの今後の学習意欲にもつながってくると考えています。その点、各学年とも大阪を取り上げている日文が子どもたちにとって親しみやすいのかなと考えますので、日文がいいと思います。

○古川教育長 ありがとうございます。御意見を伺っていますと、社会科としては日文の教科書がよいという御意見が多いようですので、日文の教科書を採択してよろしいですか。

(全員頷く。)

それでは、社会科といたしましては、日本文教出版の教科書を採択します。

続けて、地図の審議に移ります。地図では、東書と帝国（株式会社帝国書院）が推薦発行者となっております。選定委員会が帝国を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

○新納指導課長 地図については、東書と帝国の2者になります。

地図につきましては、地図そのものが多い資料がまとまっているというものかなと考えます。やはりその資料が活用しやすく調べやすいというのが、1点目のポイントでございます。2点目は、主体的、対話的活動に結びつくかということです。

1点目、資料が活用しやすく調べやすいかという点につきまして、まずは帝国の地図の45、46ページをお開きください。

子どもたちが見る機会が多いかなと思う大阪府を中心としたページです。東書では33ページ、34ページになります。選定委員会の中でも議論したんですけれども、両方の教科書を見比べて、帝国のほうが見やすいという意見でございました。東書は、ちょっと情報量が多いのかなという指摘がございました。例えば、道路のところにもたくさん書き込みがあって、子どもたちにとっては逆に情報量が多いとわかりにくいということになってしまうのではないかなという意見でございました。

2点目の主体的な学習、対話というようなところに結びつくかということなんですけれども、例えば帝国でいいますと18ページ、20ページをごらんください。この地図の使い方というページなんですけれども、18ページが一番下の段を見ていただきますと、「地図マスターへの道」というコーナー、仕掛けが設けられています。これをどんなふうにしていくかということなんですけれども、例えば43ページの近畿地方のところを見ていただきますと、例えば「タヌキの焼き物を探してみよう」とか、「日本標準時子午線上に都市の記号があるのは何市かな」、「近畿地方で果樹園が一番広がっているのは何県かな」というような仕掛けがござい

ます。これらを頼りに子ども自身が地図を開いて地図記号などに自然と興味を持って取り組めるような仕掛けになっています。一番後ろの117ページですが、「地図マスターへの道」のまとめとして、1個ずつできたら丸を順番に塗って行って最終的に地図マスターを目指すという仕掛けなんですけれども、こういった仕掛けもごさいます。授業の中では活用する場面は少ないかもしれないんですけれども、一方で地図に興味を持った子どもたちが、最近学校で行われている自主勉強などで地図帳に興味を持って取り組む子どもたちが、これを自分で進めていくこともあるんじゃないかなと思っております。

そういった点から、帝国が推薦されたというところでごさいます。

○古川教育長 御質問はございせんか。
柳澤委員。

○柳澤委員 どちらもすばらしいなと思ひますが、やっぱり小学生が見るに当たって東書のほうは非常に情報量が多いのかなという気がいたします。見ていたら千葉県ZOZOマリンスタジアムとか書かれているんですけれども、個人的にはちょっと詳し過ぎるのかなと感じます。そういう面で見にくいのかなと思うんですけれども、具体的にそういう点が情報量が多くて子どもにとって分かりにくいということなのか御説明を改めてお願いいたします。

○新納指導課長 おっしゃるとおりです。先ほど大阪の地図を見ていただいたんですけども、道路の表示などは東書のほうが細かいです。非常に小さい道も東書のほうは道路がしっかりと書かれているというところがありまして、特に市街地のほうへ行きますと、より細かく書かれているんなも

のが重なっていますので、わかりにくい、読み取りにくいと感じる子どもが出てくるのかなということが、先生方の意見として出ておりました。

○古川教育長 ほかに御質問はございせんか。
なければ次に御意見をいただきます。
片木委員。

○片木委員 私はこういう地図を見るのが好きなんですけれども、地図への関心を持つきっかけとして、まず自分が住んでいるところが一体どこにあるのか探したくなるんですね。そういう意味でも先ほどから何回か出ていますけれども、大阪の見やすさとか地図を開いたときの地図の見やすさなどは帝国だと思いますし、見やすいということが、子どもたちにとって一番使いやすい地図だと思いますので、私は帝国がいいのではないかと思っております。

○古川教育長 ほかにございせんか。
柳澤委員。

○柳澤委員 私も色のコントラストも含めて、子どもたちの学習意欲が湧くような工夫などを見て帝国がいいかなと思ひます。

○古川教育長 御意見を伺っていますと、地図は帝国を採択したいと考えますが、いかがでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、地図は帝国を採択します。

次に、算数科の審議に移ります。算数科では、大日本（大日本図書株式会社）と日文が推薦発行者となっております。選定委員会が大日本と日文を推薦した理由について

て事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 算数は、東書、大日本、学図、教出、啓林館、日文の6者ございまして、選定委員会としては大日本と日文を推薦しております。

選定の際の議論のポイントなんですけれども、1点目は、子どもたちが主体的に取り組んで子どもたち同士が対話するという活動ができて、学びが深まるかということ。2点目は、資料の中から必要なデータを読み取り、分析して、課題を解決できるような工夫がされているかということのポイントに置いております。

まずは、日文の6年生の教科書の23ページ、線対称の図形を扱っている単元なんですけれども、一番下に三角の3番に「どうしてが言えるかな」という設問が設定されているんですけれども、「右の図は線対称な図形で直線アイは対称の軸です。点Pに対応する点は点Aから点Dのどれですか。わけも説明しましょう。」という設問です。

これはこれまでの学習した内容を振り返って、子どもたち自身がじっくり考えることができる工夫かなと考えております。誰かに説明するというときには、自分の中で勉強したことをもう一度振り返って、今まで学習した言葉をもう一度反すうするようなことをすると思うんですけれども、そういう形で学んだことを自分のものにして、それをまた言葉として友達に説明する対話を通して、より自分のものにできるという非常に効果的な設問になっているんじゃないかなというところがございます。

同じく9ページを開いていただきますと、「次の学習のために」というところがございます。緑のところなんですけれども、「3年生の分数」「5年生の小数の割り算」「5年生の分数と小数」と、前の学年で学んだ

ことを確認するということができるようになっておりまして、6年生の学習にスムーズに入ることができるような工夫になっています。子どもたち自身がスムーズに入れることでより学習に入っていけるという工夫がされております。

大日本の教科書なんですけれども、同じような工夫が6ページから9ページにある「算数まなびナビ」というところで、学習の進め方やその流れ、ノートの使い方、次のページをめくっていただきまして8ページ、9ページに書いてあります。ノートの使い方が具体的に示されています。お手本にあるようなノートの使い方は、子どもたちがこういったものを参考にして主体的に学ぶことができるような工夫ではないかなと感じるところがあります。

それから31ページから何ページかにわたって黒板を背に先生が話していたりとか、子どもたちが説明している形で示されているんですけれども、これは学習を進めていく一つのサンプル例となっております。先生方にとっては指導する上での参考になるようなものということで、これは調査員の先生方からはおもしろい工夫だという意見がございました。

2点目のデータの読み取りや分析、課題解決のための工夫につきまして、日文は196ページが、データの活用という領域になるんですけれども、オリンピックの400メートルリレーを題材にデータから問題を解決する具体例が示されています。題材が子どもたちにとっては、データの活用という点ではちょっととっつきにくいところがあるんですけれども、非常に興味を引く内容で、具体的に示されていますし、特に来年はオリンピックもあり、話題になっています。子どもたちにとっては、データの読み取りや分析などは、とっつきにくい題材

ですが、興味を持って取り組めるような工夫がされているかなというところがございます。

続いて大日本なんですけれども、63 ページをごらんください。例題の示し方、借りた本の数、横軸に冊数がきてその数が上に丸を書いているということで人数を示す形になっているんですけれども、ドットプロットというものが紹介されています。升目がついていて、一目で数量をつかみやすいというところが、子どもたちにとってに効果的な表示の仕方だなというところで先生方から評価がございました。

この2点が先生方からすぐれているなどという御意見があったところがございます。

○古川教育長 御質問はございますでしょうか。

太田委員。

○太田委員 私は保護者委員なんですけれども、きょう子どもが学校から帰ってきてテストを見せてもらったら、これは本当に算数のテストなのかと感じました。私の記憶では式があって答えを書くという感じだったんですけれども全然違って、文章があって、それを読み解きながら答えを出していくという出題方法に変わっていて、びっくりしたんですけれども、選定委員会の先生の中でも議論のポイントとして挙げられている資料の中から必要なデータを読み取って分析し、課題を解決できるように工夫がされていることというのは、やはりそういう点でも重要だということになってくるのでしょうか。

○新納指導課長 新しい学習指導要領の中でも、「データの活用」という領域が非常に重要視されています。情報化社会の中で、たくさんの情報を子どもたちが活用してい

く力が求められておりました、全国学力学習状況調査の中でも同じように計算できたらいいということではなくて、その計算のために必要なデータはどれかということをもまず読み取る力も算数の中には含まれてきています。

社会の変化に伴って学習指導要領もその部分を重視しているというところがございますので、小学校の段階でも算数の授業の中でデータを読み取り活用するというのが非常に大事だということで算数を調査していただいた先生方も非常に大事にされたポイントというところがございます。

○古川教育長 ほかにございませんか。

片木委員。

○片木委員 意見書を拝見いたしまして、日文について、単元の学習に入る前に、次の学習のためにという項目があり、つながりがわかりやすいと書かれておりますが、もう少し詳しく説明していただきたいと思えます。

○新納指導課長 先ほど見ていただいた9 ページが、単元の最初の次の学習のためにという項目になるんですけれども、単元ごとに次の学習のためにというのがございます。例えば57 ページ、41 ページにも単元に入る前に既習事項を簡単に振り返るという目的で設けられております。泉南市は今も日文の教科書を使っているんですけれども、今の教科書にも同じような形で既習事項を振り返るというページがございます。先生方が使っておられる中でそれが効果的だということがございます、特に今回の改訂にあってはより問題が精選されていて、より効果があるのではないかなという先生方からの意見がございました。

○古川教育長 ほかに御質問はございませんでしょうか。

ないようでしたら、次に意見をいただきます。

藪内委員。

○藪内委員 日文でも、どうしても言えるかなというふうに見て主体的に対話的に学習できるように、さりげなく工夫されていると思います。日文、大日本、どちらも甲乙つけがたい部分があるかと思います。

以上です。

○古川教育長 そのほか御意見ございますか。

柳澤委員。

○柳澤委員 日文は説明にもありましたようにデータを効率よく活用されていて、リレーなど身近なものから興味を湧かせ、算数嫌いにならないように学びやすくさせているという面においては、大日本よりも学習しやすいように工夫されているのかなという気がいたします。

○古川教育長 ほかにございますか。

太田委員。

○太田委員 児童がスムーズに学習できるという点では、日文の方が大日本よりすぐれているかなと思います。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、算数科といたしましては日文の教科書がよいという御意見が多いようでございますが、日文の教科書を採択してよろしいですか。

(全員頷く。)

それでは、算数科といたしましては日文

の教科書を採択します。

続いて、理科の審議に移ります。理科では、東書と啓林館（株式会社新興出版啓林館）が推薦発行者となっております。選定委員会が東書と啓林館を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 理科につきましては、東書、大日本、学図、教出、啓林館の5者がございます。

選定のポイントといたしましては、1点目が観察や実験を通して問題解決の活動が充実しているかでございます。2点目は、主体的・対話的で深い学びに結びつくかという点でございます。

東書と啓林館が推薦されているんですけども、まず東書の6年生の教科書の32ページをごらんください。動物の体の働きという単元になっているんですけども、見開きで水泳の場面で息苦しいなみたいなところとか、魚は何で苦しくならないんだろうなど、身近な生活と結びつくところが単元のテーマとして冒頭にございまして、子どもたちにとって興味、関心が自然と持てるような形になっております。

33ページの右横に学ぶ前の話と、赤いボーダーのTシャツを着ている男の子が描かれていますけれども、ここに動物は生きていくために必要なものをどのようにして取り入れているのだろうかという、この単元の入り口の問いが示されておりまして、これが単元の後ろにいきますと、まとめのページとして、53ページでは同じ男の子が学んだ後の話ということで、なるほどと理解できたことですっきりした表情になっています。このように問題解決の過程が大きく示されており、自分の学習理解や成長を生活と結びつけて振り返ることができるような工夫がされています。

34 ページを開いていただきますと、一番左端のところに先ほどの男の子、問題をつかもうというところから計画し、実験を行い、実験結果を考察しようということで、次のページにまとめという形で問題解決学習の過程や流れが見出しやマークをつけて視覚的にわかりやすい示し方をしています。

続いて啓林館なんですけれども、啓林館も同じような形で学習の流れというものがわかるように整理されているんですけれども、同じく6年生の教科書の6ページ、7ページをごらんいただきますと、ここで左から順番に「見つける、調べる、ふり返る」という形で問題解決の過程が一覧にされている工夫がされています。

調査員の先生方がよいな、おもしろいなという指摘があったのが、4ページ、目次のページになるんですけれども、この下に「理科のきせつごよみ」というものが盛り込まれておりまして、理科の学習とその季節カレンダーの流れの中で、こんな準備があるよとか、この時期にこんなふうに進んでいくよということが紹介されておりまして、学習の流れがつかみやすいよう工夫されているところでございます。

2点目の主体的、対話的に学びが深まるかということについては、どの教科書においても問題をつかむ、予想する、計画する、観察や実験をする、考察をする、まとめるという流れは工夫がされています。

先ほどの東書の6年生の教科書の53ページをごらんいただきますと、52、53ページが学習のまとめになりますけれども、「たしかめよう」というタイトルがついており「わかったかな・できたかな」というところで学んだことを問題を解きながら振り返ることができるようになっておりまして、「考えよう」というテーマが与えられていて、最後の「ふり返ろう」のところ子どもたち同士を対話に結びつけるような設定

になっています。

啓林館も同じく6年生の教科書の10ページに問題解決の流れが示されております。ものの燃え方というところですがけれども、同じように左側に「問題をつかもう」と矢印があつて問題、予想があつて、実験をしまして次のページにいて、その結果、考察、まとめと流れてまいります。12ページのまとめのところで重要になってくる3つの気体の名前、窒素、酸素、二酸化炭素といったものが強調されております。自然な形で重要な語句について、子どもたちの印象に残るような工夫がされております。19ページのまとめのページなんですけれども、その一番下の欄のところで、この3つの気体の名前がもう一度出てくることで自然な形で重要な気体の名前について子どもたちの理解が進むよう工夫がされております。

以上になります。

○古川教育長 御質問はございますでしょうか。

藪内委員。

○藪内委員 東書だけサイズのちよつと大きくてA4だと思うんですけれども、子どもたちはたくさん教科書を持って行かないといけないと思うんですけれども、重さなどが子どもにとってはどういう感じになるのでしょうか。

○新納指導課長 大きさにつきましては、近年A4版の教科書というのが一般的になっています。見やすくレイアウトするにはある程度の大きさがあるということかなと捉えているんですけれども、ランドセルもA4版のファイルも収まりますよという形でコマーシャルもされています。サイズの部分では、A4版が一般的になっているのかなと思います。重さというところ

もどうなのかなと気になりまして、はかってみたんですけれども、例えば東書 520 グラム、大日本は 462 グラム、学図は 540 グラム、教出が 530 グラムの啓林館は 490 グラムとそれぞれ違いがあるんですけれども、大きな違いではないのかなと考えているところです。

○古川教育長 ほかに御質問はございますか。

なければ次に御意見をいただきたいと存じます。御意見がある方はいらっしゃいますか。

柳澤委員。

○柳澤委員 理科離れと言われていますが、東書の教科書についてはふだんの生活とリンクされているということで、教科としてだけでなく日常の知識として習得するためには子どもたちにとってよいのではないかと思います。

○古川教育長 ほかにございますか。

片木委員。

○片木委員 啓林館もわかりやすく、工夫もされていると思いますが、東書の教科書を開いたときにわかりやすさというか、関心を引きつける力を感じました。開いたときに引き付けられ関心を持てるということが学習の根本になるんじゃないかという気がいたしますので、東書のほうがいいのではないかと思います。

○古川教育長 ほかにございますか。

太田委員。

○太田委員 東書の対話的な仕掛けをしているところもいいかなと思います。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、理科といたしましては東書の教科書がよろしいという御意見が多いようですので、東書の教科書を採択してよろしいですか。

(全員頷く。)

それでは、理科は東京書籍の教科書を採択します。

次に、生活科の審議に移ります。生活科では、東書と啓林館の2者が推薦発行者となっております。選定委員会が東書と啓林館を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 生活は、東書、大日本、学図、教出、光村、啓林館、日文の7者ございます。

生活につきましては、幼稚園から小学校に上がってくる子どもたちが体験を通じて学べるか、子どもたち同士が対話するという活動がしやすいように工夫されているかというところを1点目のポイントにしております。2点目は、就学前の幼稚園や保育所との接続についてどんな配慮がされているかというところをポイントにしております。

1点目についてですけれども、東書の上の教科書の45ページをごらんください。1年生の子どもたちが手にする教科書ですので、文字情報ではなく、絵で示されているんですけれども、特に右端のところ「約束」というようなところがございまして、活動の約束事について絵で示されております。

子どもたち自身が自分で考えるきっかけになりますし、何があかんのかなみたいな問いかけをすることで子どもたち同士の対話にも結びつくという点がいいのではないかと思います。

啓林館の上の教科書の 22 ページをご覧ください。「わくわくボックス」ということで、植物についての学習を始めるんですけども、女の子が吹き出しで、「種にはいろいろな色や形があるね。」というところから、学習が始まっていくんですけども、この部分が子どもたちの学習のスタートということで一番左端に「わくわく」と緑で書かれています。それが次のページに入りますと、周りがピンク色になるんですけども、この部分が「いきいき」というところで子どもたちの活動というところが、「いきいき」というテーマで同じ色で紹介されています。

続いて 32 ページをごらんください。ここには「ぐんぐん」とブルーで示されています。活動したことを表現するといった形で学習が発展していくという構成がされているところがございます。どれも子どもたちが体験を通じて学んでいくための工夫というところがございます。

2 点目の幼稚園や保育所などの就学前教育との接続というところなんですけれども、スタートカリキュラムといったことが盛んに取り上げられておりまして、東書の上の教科書の表紙を開いていただきますと学校生活スタートということで、少し紙幅が小さいサイズのところがあるかと思いますが、こちらをめぐっていただいて 2 ページ、3 ページ、新しい学校の日というところから始まっていくような仕掛けがされていて、3 ページの右上の吹き出しのところでは幼稚園や保育所、こども園ではどんなことをしていたのかなということで、就学前教育で体験してきたことと学校生活を結びつけるようなきっかけづくりがされています。

次に啓林館の上の教科書を見ていただき、「がっこうだいすきあいうえお」というページをごらんください。1 ページ目はお兄ちゃんと幼稚園の妹が並んでいる写真なん

ですけども、幼稚園や保育所で体験してきたこととして、幼稚園の場面なんかの写真で紹介されていますけれども、そういったことを振り返りながら 5 ページで小学校での生活ということに結びついていきます。小学校とのつながりが丁寧にわかりやすく紹介されているところがございます。

以上です。

○古川教育長 御質問はございますか。
柳澤委員。

○柳澤委員 スタートプログラムと言いますか、幼児期における教育の円滑な接続についてということなんですけれども、この 2 者以外はどんなふうになっているのでしょうか。

○新納指導課長 光村では上の教科書の 16 ページの「なかよしさがしにしゅっぱつだ」のところの体育館の写真なんですけれども、子どもたちが体育館の天井を見上げて保育園にはなかったねということが出てまいります。光村では就学前とのつながりを感じるのには、この言葉ぐらいかなと思います。

それから教出につきましては、10 ページ、11 ページの写真の下のところにイラストで紹介されている「こんなあそびがすきだったよ。」という場面では幼稚園の様子がイラストで紹介されていて、それが小学校とのつなぎという形になっていますけれども、光村や教出についての工夫というのはこういう点になっています。あと日文、大日本、学図については、就学前教育と小学校での学校生活の接続という部分については、扱われておりません。

○古川教育長 ほかに質問はございませんか。

次に御意見をいただきたく存じます。いかがでしょうか。

藪内委員。

○藪内委員 東書や啓林館、両者ともそうなんですけれども、生活スタートというところだけページの大きさを変えてわかりやすく示されていて、幼稚園から上がってきた新1年生が新しい真っさらな教科書を見て、めくりやすいようにつくられているので使いやすいかなと思います。

○古川教育長 そのほか御意見がございましたらどうぞ。

太田委員。

○太田委員 幼稚園や保育園の幼児期における教育との滑らかな接続を進めるということができるよう工夫されているので、啓林館がいいかなと思います。

○古川教育長 そのほか御意見ございますか。

片木委員。

○片木委員 小学校の学習の仕方にうまく移行できるように工夫されている点では、啓林館が一番すぐれているように思いました。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、生活科としては、啓林館の教科書がよいという御意見が多いようですので、啓林館の教科書を採択してよろしいですか。

それでは、生活科としましては啓林館の教科書を採択します。

7つの教科書を選んでいただきましたが、ここで休憩を入れたいと思います。

15分間の休憩を入れて、15時40分から再開したいと思います。それでは暫時休憩

いたします。

(休憩)

(15時40分 再開)

○古川教育長 それでは休憩前に引き続きまして、審議を進めます。

次に、音楽科の審議に移ります。音楽科では、教芸（株式会社教育芸術社）が推薦発行者となっております。選定委員会が推薦した理由について、事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 音楽は発行者が、教出と教芸の2者ございますが、選定委員会でのポイントは2点ございます。1点目は、音楽の表現や鑑賞の活動を通して、生活や社会の中での音や音楽とかかわるための工夫がなされているかということが1点目。2点目は、子どもたちが主体的に学習できるか、また子どもたち同士が対話して学ぶための工夫がされているかでございます。

1点目について、生活や社会との結びつきが音楽の表現や鑑賞を通して学べるかという工夫についてですが、まずは教芸の5年生の教科書の表紙を開いていただきますと、フィギュアスケートの浅田真央さんの写真が紹介されています。日常生活の中でもスポーツと関連付けて、音楽を通した表現活動を題材とすることで、子どもたちがイメージしやすいように工夫されていると思います。

それから9ページを開きますと、「BELIEVE」の楽譜があるんですけども、子どもたちがよく合唱曲として歌う曲です。ここに作者であります杉本竜一さんからのメッセージが紹介されておりまして、作者の思いを通して、表現に結びつけていこう

という工夫です。

22 ページ、23 ページをごらんください。これは鑑賞の資料として、弦楽器が紹介されているんですけども、ここには下のところにバイオリン奏者の方のお話が紹介されています。震災のときの経験などが紹介されておりまして、生活の中での音楽の力や役割といったことを考えるための一つのきっかけになっていると思います。

45 ページをごらんください。ここではテノール歌手の方のお話が紹介されておりまして、歌うときの歌手の方の工夫が紹介されておりまして、日常的に音楽に触れる広がりを感じられるよう紹介されます。

続いて 53 ページをごらんください。尺八の演奏家が紹介されています。どれも音楽と生活や社会とを関連づけるコラムや音楽家の方の思いといったことが取り上げられておりまして、鑑賞する、表現するといったことの広がりをつくっていくという工夫であるかと思えます。

次に教出につきましては、6年生の最初のページをごらんください。ピアニストの辻井さんが紹介されています。子どもたちも知っているんじゃないかなと思われるような演奏家が紹介されています。

40 ページ、ここでは被災地での佐渡裕さんの活動が紹介されておりまして、震災の後の活動ということで、やはり音楽と生活とのかかわりといったことが紹介されているんですけども、先ほどの教芸さんと比べると生活面のところがちょっと薄いのかなというところがございます。

2点目の子どもたちの主体的な学びであるとか対話という活動へのつながりなんですけれども、教芸の3年生の教科書の7ページ、「リズムでなかよくなるう」というところで、身体表現を取り入れて教員や友達とかかわりながら、題材の狙いに沿って活動していくことで、音楽を通してかかわり

をつくっていくという工夫がされています。

同じく2、3ページをごらんいただきますと、「学びの地図」というのが紹介されています。これは全学年の教科書にございますが、音楽の中での歌う、演奏する、聴く、つくるといった活動を紹介されておりまして、音楽の活動、学習の見通しを持てたり、またこの扉のページを使うことで学習したことを振り返ることができるような工夫がされておりまして。

教出につきましては、鑑賞曲のところ子どもたちにとってはなじみの少ない曲が多いというところで子どもたちが少し興味、関心が持ちにくいところがあるかなという現場の先生方からの指摘がございました。以上です。

○古川教育長 御質問はございますか。

片木委員。

○片木委員 子ども同士が教科書を通じて、話し合うなど対話的な部分についてどのように工夫しているのか御説明いただきたいと思えます。

○新納指導課長 教芸の6年生の教科書の41ページをごらんください。鑑賞を味わいましょう。日本の歌を味わいましょうというテーマの单元なんですけれども、歌詞について気づいたことをメモに取るようになっています。また曲や演奏についてということ。そして3番目のところで、そのメモをもとにそれらのかかわりが生み出す曲の良さについて、話し合いましょうというような子ども自身が言葉にして対話するという学習が取り入れられております。

教出につきましても、6年生の教科書の23ページに、「われは海の子」を鑑賞して学びあうようになっています。四角で囲まれているところに学習課題が設定されてい

ますけれども、歌詞を読んでみようとか、意識して歌ってみようというような接点はあるんですが、子どもたち自身が言葉を書くというところがございませんでして、それらについて授業の中で配慮がいるようなところがございます。

以上です。

○古川教育長 ほかに御質問はございますか。

ないようでしたら、次に御意見をいただきます。御意見のある方どうぞ。

柳澤委員。

○柳澤委員 教芸は、御説明にもありましたように教出に比べて特に高学年の見開きで「ワンピース」のスーパー歌舞伎だったり、浅田真央さんだったり、子どもたちが身近に感じるものからそういったものも音楽がかかわっているんだよということであらわしている面では非常に工夫されているのかなという気がいたします。

○古川教育長 ほかにございますか。

太田委員。

○太田委員 教芸は、先生方の準備という点でも配慮されていていいかなと思います。

○古川教育長 御意見を伺っておりますと、音楽科といたしましては教芸の教科書がよいという御意見が多いようですが、教芸の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、音楽科としましては教芸の教科書を採択します。

それでは次に、図工の審議に移ります。図工では、日文が推薦発行者となっております。

ます。選定委員会が日文を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 開隆堂（開隆堂出版株式会社）と日文の2者がございます。図工のポイントなんですけれども、1点目は、図工におきましても表現や鑑賞という活動を通して生活や社会の中での形や色とのかかわりを学べるような工夫がされているかということ。2点目が、主体的に学習できるか、また対話的な活動はどう工夫されているかという点をポイントにしております。

1点目、表現や鑑賞の活動を通して、社会や生活とのかかわりを学ぶための工夫がされているかということですので。

まずは日文の5・6年生の上の教科書の7ページをごらんください。7ページの下ところに4つのピクトグラムがございまして、図画工作のつながり、広がりを表すために虹みたいなマークがついていますが、このマークが生活や社会とのつながりを紹介しているページでございます。例えば54ページを開いていただきますと、左上に虹のようなマークがありまして、地域とつながるというようなところが紹介されています。地域の中でのイベントが紹介されておりまして、地域の方と協働するという活動が紹介されておりまして、地域の方との協働活動というのはほかにも紹介されておりまして、図画工作を通して社会とのかかわり、連携といったことが紹介されています。

また1・2年生の下の教科書の56、57ページにも同じく虹のマークがついているんですけれども、図画工作が広がるというところで写真で紹介されておりまして、そういう作品の展示を通して、異学年の子どもたちがかかわっている場面であるとか、57ページの右下の写真なんかは外国から遊びに来た友達と一緒に作ったよと、絵画を

通して外国の人とのかかわり、交流といったことが進むということの一つの紹介ではないかという意見をいただいております。

開隆堂につきましては、5・6年生の上の教科書の48、49ページに地域の方との協働活動が紹介されてはおりますけれども、少し事例としては少ないのかなというところがございます。

2点目、子どもたちが主体的に学習できるかという工夫についてなんですけれども、先ほどの日文の5・6年生の上の教科書でいいますと、例えば8ページ、9ページをごらんください。絵の具スケッチという単元ですけれども、8ページには制作途中の子どもたちの様子が写真で紹介されておまして、またその吹き出しなんかを通して、表現の発想が広がったり、構想を深めるためのヒントになるようなものがさりげなく紹介されておまして、子どもたちの発想や空想を広げ深めるといった工夫がされております。このような工夫は、ほぼ全てのページで制作過程が紹介されていたり、吹き出しを通して意図などが紹介されております。

開隆堂につきましては、5・6年生の上の教科書の14ページ、15ページを見ていただきますと、上のところで子ども同士が作品を見せ合って交流している絵があり、吹き出しを通してそれぞれの作品を交流するというところで、発想を生かしたり、互いを認め合うためのきっかけづくりの工夫がされております。以上の部分では日文がいいのかないかなというところで推薦されているというところがございます。

以上です。

○古川教育長 御質問はございますか。
蕨内委員。

○蕨内委員 お子さんによりましたら、相

手と意思疎通が苦手な子もいると思うんですけれども、そういった子でも図画工作の面においてつくったり、描いたりすることが得意だったりすると、友達と交流できたりするかと思うんですけれども、そういった対話的な工夫などはどうなっているのでしょうか。

○新納指導課長 日文の5・6年生の上の教科書でいいますと、52、53ページをごらんください。ここでは思いを伝え合おうということ自体がテーマになっておまして、自分がつくった作品への思いみたなことを紹介しあうというような活動が盛り込まれているというところで、今おっしゃったような作品を通して対話する、交流するために工夫されております。

一方、開隆堂については、同じく5・6年生の上の教科書でいいますと、30、31ページをごらんいただきますと鑑賞するようになっております。この作品を見てどんなことを感じるかといったことを交流するような設定になっているんですけれども、子どもたちがよりいろんな思いを出したり、広がりを持つためには、自分の作品を通すほうがやりやすいのかなという御意見をいただいております。

○古川教育長 よろしいですか。ほかに御質問はございませんか。

それでは次に御意見があればいただきます。

蕨内委員。

○蕨内委員 主体的な学習や対話的な児童の活動になるような工夫を両者ともされていると思います。よくできているかなと思います。

○古川教育長 ほかにございますか。

片木委員。

○片木委員 私は日文のほうが図工の活動を通じて生活と社会とのかかわり、またそのつながりを意識できるように工夫されているのでいいのかなと思いました。

○古川教育長 日文の教科書がよろしいという御意見が多いようですけれども、図工は日文を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、図工は日文の教科書を採択します。

引き続き、家庭科の審議に移ります。家庭科では、開隆堂が推薦発行者となっています。選定委員会が推薦した理由について事務局から説明をお願いします。新納指導課長。

○新納指導課長 家庭科については、東書と開隆堂の二者がございまして、選定委員会としては開隆堂を推薦されているというところでございます。

選定の際のポイントの1点目は、具体的な生活上の課題と関連させながら学習活動が出されるかという点でございます。

2点目は、主体的・対話的な活動を通して学びが深まるかという点でございます。

1点目は、まずは開隆堂の17ページをごらんください。17ページの右上に四つ葉のキャラクターがございましてけれども、このキャラクターが日常生活とのかかわりへのきっかけを与えるような形になっています。使う水の量や排水の汚れに気をつけてごみを減らす工夫をしましょうというところなどは、学習したことを通して生活と結びつけるというふうな工夫でございます。

東書では53ページの右側、「やってみよ

う」というところなんですけれども、これは身の回りをきれいにしよう、整理整頓しようという学習課題なんですけれども、子どもたちにとっては余りおもしろくないというか退屈になりがちな題材かもしれないんですけれども、ここにはお道具箱をうまく仕切ることで整理整頓ができるねという形で具体的、体験的な活動ができるように工夫されています。

2点目の主体的・対話的な学習ということなんですけれども、開隆堂の教科書でいいますと62ページの左上のところですよ。話し合おうという設定がされていまして、買い物で行ったことがある工夫を紹介し合おうという形で学習活動の中に対話的な学習の工夫が取り入れられていたり、82ページの生活時間を工夫し合おうというところでも自分の生活の中から課題を見つけて主体的に取り組むことで学習を進められるよう設定されています。

それから22、23ページでは裁縫が学習テーマになっているんですけれども、ここは指の使い方、針の使い方を写真でうまく紹介されておりました、この写真が大変わかりやすいなというところが先生方からの評価が高かったところです。子どもたちにとっても意外とわかりにくい、実際に縫うのにどうしたらいいのかがなかなか言葉では伝わらないところがありますが、写真だと非常によくわかる。これは子どもたちにとっては教科書を通してやり方がわかって、さあやるぞと向かいやすいのではないかとこの点を先生方が評価されています。

続きまして、東書の4ページをごらんください。そこにもありますように、学習の進め方の中で課題発見、課題解決、そして評価改善というところで、活動が段階的に深まっていくようにステップごとの活動が紹介されています。特に、左肩の学習の進め方のところにステップ1、2、3の中で

学習を進めようというところが説明されております。

「私の生活、大発見！」のところでは、ページをめくっていきますと、7ページのところで最初の段階、「見つめよう」から始まって13ページの活動4の「深めよう」というところでは、学んだことを活用して実践してみましようという形で学習を進めていくために工夫されているというところがございます。

以上です。

○古川教育長 御質問はございますか。
柳澤委員。

○柳澤委員 この2者で課題として挙げられていることはあるんですか。

○新納指導課長 課題の部分として出てきていたのは、東書につきましては28ページの裁縫のところなんですけれども、初めての手縫いというところの作品の中で、マイミニバックが例示されているんですけれども、子どもたちにとってはちょっと難易度が高いなど現場の先生からの御指摘がありました。

また、65ページのマシンの使い方というところも子どもたちにとっては難易度の高いところのようなんですけれども、さらに説明手順が箇条書きになっており順番に示されているんですけれども、ここも子どもたちにとってはわかりにくいという声がありました。一方で、開隆堂の教科書の40、41ページをごらんいただきますと、同じようにマシンの使い方の手順がございますが、①、②、③、④と順番も示されていて、子どもたちにとってはわかりやすいなというところがございます。

○古川教育長 ほかに御質問はございませ

んか。

なければ次に御意見があればどうぞ。

藪内委員。

○藪内委員 東書も開隆堂も2つともポイントについては本当に見やすく工夫されていて、甲乙つけがたいなと思います。

○古川教育長 ほかにございますか。
片木委員。

○片木委員 東書は、先ほど説明がございましたように課題が、先生の指導を行ったとしても難しい部分があるように思いました。その点では、開隆堂がいいのかなと私は思います。

○古川教育長 ほかに御意見はよろしいですか。

開隆堂の教科書130ページに、ちょう結びの仕方が書いてあるのはいいなと思えました。実際の生活ではよく使うんですけれども、きちんと習うというのはなかなかなくて、わかりやすく書いてあり非常にいいと思えました。

御意見を伺っておりますと、開隆堂の教科書がよいという御意見が多いようですが、開隆堂の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、家庭科では開隆堂の教科書を採択します。

引き続き、保健の審議に移ってまいります。保健では、光文(株式会社光文書院)と学研(株式会社学研教育みらい)の2者が推薦発行者となっています。選定委員会がこの2者を推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

新納指導課長。

○新納指導課長 保健につきましては、東書、大日本、文教社（株式会社文教社）、光文、学研の5者がございます。選定委員会では、光文と学研が推薦されております。

ポイントとしては、1点目、特に小学校の高学年は思春期の入り口というところで、心と体のかかわりと結びつきを踏まえて発達について理解できるように工夫されているか。2点目は、主体的・対話的な学びというところがございます。

1点目の心と体の結びつきにつきまして学研の3・4年生の教科書の29ページをごらんください。子どもたちの発達度合いも差が出てくるところがある一方で、友達同士の結びつきも強まる、ギャングエイジというところ、集団を意識していくような年代でもあるんですけれども、そういったところで体の変化が一人一人違うということで、その体の変化についてどんな気持ちだったのかということや年齢の近い、小学校6年生のノリオ君の投稿とか小学校4年生のマサコさんの投稿というのを題材にして、身近なもの、自分のこととして捉えられるような形で紹介をしております。

また5・6年生のところでは8ページの下半分に特に思春期の心というところで、さりげなくスクールカウンセラーのことも紹介されておまして、そういう悩みの相談窓口としてスクールカウンセラーがいるんだよというをさりげなく紹介されております。思春期の入口の時期にスクールカウンセラーが自然な形で子どもたちに紹介されているのはいいなというところがございます。

それから14ページ、ここでは体ほぐし運動ということで、体がリラックスすると心もリラックスするよというような呼吸を通して体のほぐし方が紹介されているんです

けれども、これも子どもたちが自分自身の体と心について理解していく一つのきっかけになるとともに非常に実践しやすいような形で紹介されていますので、子どもたちが実際にやってみようというところにつながるんじゃないかなというところがございます。

光文につきましては、5・6年生の教科書の16、17ページに不安や悩みなどへの対処というテーマがございます。ここにもスクールカウンセラーについて紹介されておまして、子どもたちにとっては5・6年生の段階でスクールカウンセラーが紹介されているというのはいいんじゃないかなというところがございます。

2点目の主体的で対話的な学びということにつきましては、4ページの学習の進め方を知ろうというところで、縦に矢印が示されていて、学習の始めのところで「自分の生活をふり返る」というところから始まって「学習課題をつかむ」「課題解決に向けて、学習活動をする」、そこには「調べよう、考えよう、やってみよう、話し合おう」、そして最後にまとめるといったように、手順が非常にわかりやすく説明されています。

また、ページをめくっていただいて10、11ページでは、話し合おうということがテーマになっているんですけれども、自分自身の経験を振り返って人とかかわりなどから話し合ってみましょうという形で紹介されておまして、ここも自分自身の成長をこのイラストを通してすぐつかみやすいなというところがございます。

学研につきましては、例えば3・4年生の教科書の3ページ、ここも学習の進め方ということで紹介されておまして、先ほどの光文とよく似ているんですけれども、学習の進め方として縦に矢印が紹介されていて、「つかむ」というところから始まって「考える、調べる」、そして「まとめる、深

める」という形で学習展開が見てわかるように紹介されているというところがございます。

以上です。

○古川教育長 御質問がある方どうぞ。

太田委員。

○太田委員 光文と学研において、問題点やそのほかすぐれている点というのはあるのでしょうか。

○新納指導課長 すぐれているというところで、光文の5・6年生の9ページの下欄です。心の発達の仕方を考えようというところで、上のほうで感情とか社会性とか思考など、ちょっと言葉が難しいですけども、4・5歳のころと今と比べてというところがイラストで紹介されています。それを見て下のところに自分自身でも描いてみましょうということで、自分自身をふり返るための工夫がされています。

同じく13ページの下欄です。ふだんの生活の中で体と心が影響し合っていると思うことについて書いてみましょうという形で、自分自身を振り返ることが自然にできるような工夫がされているのが光文というところでございます。

以上です。

○古川教育長 ほかに御質問はございませんか。

なければ次に御意見をいただきたいと思えます。

柳澤委員。

○柳澤委員 子どもの心と体の成長について、心の発達は2者とも5・6年生の教科書に載っているんですが、先ほど御説明があったように考えようといったところで、

子ども自身が親から愛されているとかそういうふうなことで情操教育というんですか、そういうようなことを考えると光文のほう子どもたちに自主的に考えさせられるのかなという気がいたしました。

○古川教育長 ほかに御意見はございますか。

片木委員。

○片木委員 2者の教科書を比べて、子どもの主体的な学習や対話的な活動ができるよう工夫されているのは光文かなと私は思いました。

○古川教育長 光文の教科書がよいという意見が多いようですけれども、光文の教科書を採択してよろしいですか。

それでは、保健といたしましては光文の教科書を採択します。

次に、英語の審議に移ります。

英語は、本市としても特に力を入れていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

英語では、開隆堂の1者が推薦発行者となっております。選定委員会が推薦した理由について事務局から説明をお願いします。

○新納指導課長 英語につきましては、東書、開隆堂、学図、三省堂（株式会社三省堂）、教出、光村、啓林館、7者ございます。

選定委員会では、開隆堂を推薦発行者としております。ポイントは、1点目、外国語が教科としてスタートしていくと、小学生にとっては英語の教科書は初めてになるんですけども、やはり中学校への接続を考えたときに読む・書くという力をうまくつけることができるかというところが重要かと思えます。そういった読むや書くといったところに親しみながら、中学校の学習

にスムーズに入っていける工夫がされているかというところが1点目です。2点目が、主体的・対話的な活動を通して学びが深まるようになっているかというところになります。

1点目のポイントですが、読むこと・書くことについてなんですけれども、特徴のあるところとして、東書について別冊の「Picture Dictionary」とタイトルがついている単語集がございまして、5・6年生で学習する単語がわかりやすく紹介されておりますので、自然とその単語が子どもたちの中に入っていくところがあるのではないかとこのところがございまして。

続いて開隆堂の6年生の教科書を見ていただきますと、118ページの巻末の付録のところになりますけれども、この付録では二学年分の単語のリストが紹介されています。123ページから6年生分の単語になるんですけれども、これはわからない単語が出てきたときに、ここを開けば自分で調べることができるというところがありますので、読む・書くために単語を身につけていくというところでは非常に有効ではないかなということですね。これは中学校で辞書を使いこなすための準備にもなるのではないかとこのところがございまして。

それから書くということにつきまして、単語を書く四線に各者特徴がございまして。例えば今見ていただいている開隆堂では32ページ、レッスン6の「My Summer Vacation」なんですけれども、夏休みの思い出を書いてみましょうということで、ここに英語のノートでよく使う四線が示されているんですけれども、この四線の幅を見ていただいたらわかるように真ん中のところがやや広めで書きやすいような形で示されています。四線の幅というのは出版社によって特徴がありまして、開隆堂、学図、三省堂、教出、啓林館は4

つの線の幅が似通っています。一方で東書、光村は真ん中の幅が広がっております。これは書きやすさの工夫の一つだと思うんですけども、中学校になりますと同じ幅の線になりますので、中学校に上がったときに困らないようにするには同じ幅のほうがいいのではないかとこの先生方からの意見がございました。

また開隆堂について、5年生の教科書の81ページからが、書く、文字に慣れようというところがここから後ろにまとめられておりまして、各レッスンでももちろんそういった学習は進んでいくんですけども、特に書くという文字指導については、ここにまとめられている形になっておりますので、指導しやすいという先生方から意見をいただいております。

それからもう一つ、開隆堂の工夫として6年生の教科書の102ページ、ここでは中学校へつなげようという課題が設定されています。中学校に入ったときにちょっとまずきやすいような項目を先取りしているところがございまして。語順であるとか過去形など、小学校の段階で少し触れておくことで中学校に上がったときにスムーズに学習するための工夫ではないかとこの先生方から、これはいいねという御意見がございました。

2点目の主体的・対話的な学びということにつきましては、子どもたちが見通しを持った学習ができるかということについて、CAN-DOリストについて先生方から意見が出ております。やはりCAN-DOリストがあるということは、子どもたちにとっては見通しにもなるし、学習内容のゴールを子どもたち自身がかみやすくなるので、大事だという御意見でした。

開隆堂の教科書では、1、2ページにCAN-DOリストが紹介されておりまして、レッスンをやっていくにしたがって、こん

なことができるようになるんだということが紹介されています。

巻末の112ページのところでも、教科書で学んだことリストがありまして、活動内容を振り返り、自分自身が点検できるような工夫がされています。

CAN-DOリストにつきましては、三省堂でも掲載されています。光村でもあるんですけども、子どもたちにとっては学んだことを確認する際にちょっとわかりにくいというところがありました。またCAN-DOリストが載っていないというところもありまして、東書、学図、教出、啓林館、こういったところはCAN-DOリストは掲載されていないというところがあります。こういったところも少し違いがございます。

それから、学習課題の学習しやすさというところになってくるかと思うんですけども、例えば東書の6年生の教科書の34ページ、ユニット4、「Summer Vacations in the World」という単元名ですけども、ここでは世界と日本の夏休みの過ごし方を比べようとなっているんですけども、子どもたち自身が活動するのは、そこにあるようにアイスクリームを食べたんだというふうなことだとか、キャンプして楽しかったということ表現するということで、世界と日本の夏休みの過ごし方を比べるというのは、ちょっと学習内容とずれているのかなという御指摘がありました。

それから開隆堂の6年生の教科書の6ページ、「What time do you get up?」というタイトルがありますけれども、ゴールはそのすぐ下にあります。自分の一日を紹介しようということで、私は何時に起きたよということを表現するところがそのままゴールとして載っている。非常にわかりやすいのかなというこ

とでした。それから同じく何時に起きたよというところに続いて10、11ページの振り返りのところでは、時刻をget upの時間、お風呂に入った時間などを振り返って書くようなところが非常に使いやすく、わかりやすい振り返りの設定の仕方になっているなというところがございます。

振り返りというところだと、啓林館の6年生の教科書の18ページ、ユニットの振り返りをしましょうということなんですけれども、このようにユニットごとにゴールや振り返りができるようになっています。これはどの発行者もされているんですけども、例えば啓林館ですと、1番、2番、3番なんかはやりやすいのかなと、4番目の英語で言いたいけど言えなかったことや、もっと知りたいと思ったことを書いてみようとか、5番の学習した英語をどんな場面で使いたいか書いてみようとなってくると、英語での学習内容から少し発展的になっていて、時間もいるのではないかなというところでどうかなという御意見が出ておりました。

以上のような点から調査員の先生方からは開隆堂が一番使いやすいという意見をいただいております。

以上です。

○古川教育長 質問はございますか。

片木委員。

○片木委員 先ほどの説明のCAN-DOリストについて、あると便利だとか目標がはっきりわかるというような説明がございましたけれども、光村のCAN-DOリストが他者と比較して使いにくいと意見書に書かれているんですが、具体的にどうということなのでしょうか。

○新納指導課長 例えば5、6年生の教科

書どちらにも記載されているんですが、8ページにできるようになることということでCAN-DOリストがございます。タイトルが「Here We Go!」となっているものです。光村の場合は関連ごとのリストになっており、レッスンやユニットの順番ではなくて関連ごとになっており学習の流れのとおりでないものですから、学習を進めていったときにできるようになったことがわかりにくいかなという御意見でございます。

以上です。

○古川教育長 ほかに御質問はございますか。

太田委員。

○太田委員 読むこと・書くことになれ親しむということについてなんですけれども、四線の幅のこととか単語リストとかがあったりして、中学生への円滑な接続ができるように工夫されているのは開隆堂ではないかなと思います。

○古川教育長 ほかに御意見がございましたらどうぞ。

柳澤委員。

○柳澤委員 開隆堂のCAN-DOマップは、名前や誕生日など自分自身に身近なものから慣れ親しんでいくという段階を踏むようになっていますので、開隆堂の教科書がいいのかなという気がいたします。

○古川教育長 開隆堂がいいという意見が多いようでございますが、開隆堂の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(全員頷く。)

それでは、英語は開隆堂の教科書を採択します。

次に、道徳の審議に移ります。道徳では、日文の1者が推薦発行者となっております。選定委員会が推薦した理由について、事務局から説明をお願いします。

○新納指導課長 道徳につきましては、東書、学図、教出、光村、日文、光文、学研、あかつき（廣濟堂あかつき株式会社）の8者が発行者となっております。

日文が推薦されているんですけども、議論したポイントが3点ございます。1点目は、子どもたちが主体的に学習できるかということ、子どもたちの興味・関心をしっかりと引き出す内容になっているかということ。2点目は、子どもたち同士が話し合い、議論することで考えを深めていくことがしっかりできるようになっているかということ。3点目は、子どもたちが自分自身を振り返って成長を実感できるような工夫がされているか、また教員が子どもたちの成長の様子を把握して指導に生かすことができるかという点でございます。

1点目の子どもたちの主体的な学びに結びつくような興味・関心を引きつけるかということについて。まず日文の1年生の教科書の22ページをごらんください。1年生は、小学校に入ってきたばかりで、しっかり文章を読むといったこともこれからという子どもたちですけれども、そこに生き物に優しくというテーマで「つばめ」という題材の教材になっておりますが、その「つばめ」というタイトルの横にここに出てくる登場人物、私、お父さん、お母さんと紹介されている。またそこに簡単な流れ、粗筋、つばめは春に日本に来る渡り鳥です。卵を産むために、泥やわらなどで巣をつくりますということが簡単に紹介されているんですけども、こういったものも1年生

の子どもたちにとってはすごくわかりやすい、入りやすい工夫ではないかなというところではあります。

同じく日文の3年生の教科書の24ページに「さと子の落とし物」というタイトルで、遠足に出かけたときのお話になっておりますけれども、こういったように子どもたちの日常生活を題材にしているものがたくさんあり、行事などの時期にもちょうど合っていて、子どもたちにとっては自分たちのことと結びつけて考えやすいような配列がされているというところがございます。

一方で、東書の1年生の教科書の90ページ、「ぼくのはなさいたけど」というタイトルの文章がございましてけれども、これは1年生の読み物としてはちょっと長いかなという心配の声がございました。同じく学図の1年生の教科書の100ページにあります、「ぱちん ぱちん きらり」というタイトルの教材も長いので、集中して取り組む、読み切るというのは、ちょっと厳しいかなという声がございまして。光村も同じく1年生の教科書の90ページ、「はしの上のおおかみ」というタイトルの教材もちょっと長いかなというお声がございました。

また、先ほど日文のところでも少し指摘したんですけれども、東書の2年生の教科書の10ページ、2年生になって自分でできることということで、「自分でオッケー」というタイトルなんですけれども、持ち物を自分自身で用意していくにはという中身になっています。学校の生活面との結びつきと言いましょか、学校での出来事を中心としている読み物で、子どもたちにとっては考えやすいなというところがございまして。東書なんかは、こういうふうな学校での出来事を中心とした題材というものがたくさんございまして。

続いて、光文の6年生の教科書の130ページ「めざせ、百八十回！」というタイト

ルの縄跳びを跳ぶんやという題材ですけれども、子どもたちにとって身近な題材ではないかなというところではあります。こういう身近な題材、また中身も読みやすいといったものが光文なんかはたくさんあるなというところではあります。

また光村の3年生の教科書の17ページ、これは情報と向き合うというところがテーマになっておりますけれども、具体的な実生活に沿った中身になっておりまして情報リテラシーといったことを考えさせていく上でも有効だというところがございまして。

各者ともに子どもたちの生活に結びついている題材がたくさん紹介されておりました、子どもたちが興味・関心を引くような工夫が多くなされているなというところがございまして。

2点目の子どもたち自身が議論して考えを深めていくような工夫についてはどうかというところなんですけれども、教出の6年生の教科書の9ページを例にしますとページの左側に、「考えよう・深めよう」ということで発問が掲載されています。こんな形で教科書の中に掲載されておりましたと、どうしても発問に沿った考え方になっていきますので、子どもたちの趣向といったものもそういった方向に偏りがちになってしまいうんじゃないかなというところがございまして。

同じような教科書の発問というところが気になるのは光文です。例えば、光文の6年生の教科書の12ページ、「一年生のお世話係 —アフター・ユー—」というタイトルの題材なんですけれども、本文の下ところに線がありまして、記入欄がございましてけれども、そこにあるように発問が記述されているんですけれども、こんな形で書いてあると子どもたちはどうしてもそこに目がいって、影響を受けてしまい、その発問に沿ったような形の考え方になってしま

いがちになってしまいますのではないかと
ところが気になるなという指摘がございま
した。

それから3点目の子どもたち自身が自分
自身を振り返るということであるとか、教
員自身が子どもの成長を把握して指導に結
びつけるような工夫ができるかという点に
ついてなんですけれども、道徳ノートが非
常に効果的ではないかなということでした。

例えば日文は、教科書の一番後ろにはさ
み込まれるような形で道徳ノートが別冊の
形についてくるんですけれども、このノー
トが大変使いやすいという先生方から意見
がありました。

こういった形のノートがないのは、東書
や光村、学研ですが、こういった形のもの
がなければ先生方がそういうものを用意し
て、そこに記録していくような形をとると
いう指導になろうかと思えます。

また学図につきましては、1年生の教科
書では記述欄がついているんですけれど、
その記述欄が教科書の中にあり、これが学
習の順番と異なっているものですから少し
使いにくいという声がございました。

光文につきましては、巻末に記述欄があ
るんですけれども、その記述欄が少なく
て使いづらいという御意見があり、あかつ
きにつきましては、ノートが教科書の題
材順ではありませんでして、内容項目順
になっておるところから、使いにくいとい
う御意見がございました。

以上です。

○古川教育長 御質問はございますか。
藪内委員。

○藪内委員 先ほども詳しく説明して
いただいたんですけれども、日文の教科書
には道徳ノートがついているんですけれど
も、現在使用しているものから改善され
た点に

ついて詳しく説明していただきたいと思
います。

○新納指導課長 泉南市は今も道徳は日
文を使っていますけれども、今回の道徳ノ
ートですと、例えば1年生の教科書の13
ページの「日本のお菓子」というタイト
ルのところでは設問が上のほうに一つ設
定されています。設定されている設問は
一つだけなんです。カラーのところは空
欄になっておりまして、授業者によって
問いを設定できるような自由度が高い形
になっております。今使っているものは
設問自体が3つあって、授業する先生方
は自由度がないようなところがあったん
ですけれども、今回の教科書ではそうい
ったところも授業者が少しフリーハンド
で書かせるようなことができるようになって
おりまして、そういう点でもこの道徳ノ
ートがより使いやすくなったという声
をいただいております。

以上です。

○古川教育長 ほかに御質問はございま
すか。
柳澤委員。

○柳澤委員 御説明の2点目で、児童が
考え、児童同士が議論していくことが
できるようになっているかということなん
ですけれども、これについて日文の教科
書はどうなっているのでしょうか。

○新納指導課長 1点目のところとちょ
っと重なるところがあるかと思うんです
けれども、子どもたち自身が内容をつか
んで関心を持って教材に入っていける
というところ、登場人物が紹介されて
いたり、簡単な粗筋があるということで、
まず理解しやすいというふうなところ、
そんなところから理解の部分で時間
がコンパクトにできるの

でそういう子どもたち自身が話をするような時間をゆったりととれるというふうなところはメリットではないかなと先生方から御意見をいただいております。

○古川教育長 ほかに御質問はございますか。片木委員。

○片木委員 意見としていいですか。

○古川教育長 意見でも結構です。片木委員。

○片木委員 子どもたちが自分で考えて、その考えを相手に伝え、またそれをもとに子ども同士が議論していくことができるという面では、日文がよく工夫されているなというふうに思いました。

○古川教育長 ほかに御質問・御意見はございますか。
太田委員。

○太田委員 子どもたちが主体的に勉強できるように興味を引き出せる内容になっていると思うのは、日文、光文、光村ではないでしょうか。

○古川教育長 ほかにございませんか。
藪内委員。

○藪内委員 児童が自分を振り返って成長を実感できて、また教員が児童の成長の様子を把握して指導に生かすための工夫がされているのは日文であると思います。

○古川教育長 全体的に日文の教科書がいいという意見が多いようですが、日文の教科書を採択するというところでよろしいですか。

(全員頷く。)

それでは、道徳は日文の教科書を採択します。

これで、小学校の教科書の採択が全部終わりました。

続いて、中学校につきましても道徳以外については採択が必要ですので、引き続き審議をいたします。

中学校につきましても、令和3年度から新学習指導要領の全面実施を控えており、今回の採択に係る教科用図書の新たな申請がなかったため、前回の平成26年度検定合格図書の中から採択を行うこととなりますが、その際4年間の使用実績を踏まえつつ判断することもできております。選定委員会は、これまでの使用実績から各種目とも現在使っている教科書が適当であるとの意見です。

資料をごらんいただいて、意見書の16ページに中学校の発行者と推薦発行者、これが今使っているもの全てのリストになっております。ごらんいただきまして、御質問・御意見等をいただければと思います。

太田委員。

○太田委員 質問なんですけれども、新学習指導要領が実施されるときには教科書もそれに合わせた教科書になるのかなと思うんですが、その教科書の採択は来年に行われるということになるのでしょうか。

○新納指導課長 そのとおりです。中学校の教科書は今年度が検定年となっておりますので、来年度に採択し、令和3年から使用を開始することとなります。

○古川教育長 ほかに質問はございますか。
それでは、御意見をいただきたく存じま

す。
柳澤委員。

ないようですので、以上で令和元年第1回臨時会を終了します。長時間お疲れさまでした。

○柳澤委員 私は今使っている教科書でい
いかなと思います。

○古川教育長 ほかにございますか。
藪内委員。

署 名 ()
()

○藪内委員 柳澤委員に賛成です。各種目
とも現在使っている教科書が適当であると思
います。

○古川教育長 片木委員。

○片木委員 私も皆様と同じ意見です。

○古川教育長 皆さん、現在の教科書が適
当であるという御意見ですので、各種目と
も現行の教科書を採択することによろしい
でしょうか。

(全員頷く。)

それでは、まとめて行いましたので、確
認的に読み上げさせていただきます。

それでは、中学校の国語は東書、書写は
学図、地理・歴史・公民・地図はいずれも
帝国、数学は教出、理科が啓林館、音楽は
一般・器楽とも教出、美術は日文、保健体
育は大日本、技術・家庭の技術分野・家庭
分野ともに開隆堂、そして英語も開隆堂と
いうことになります。

以上を採択します。

以上で、日程第2、議案第1号、令和2
年度使用教科書の採択についての審議を終
了いたします。

その他、何か皆様から御発言があります
か。

よろしいですか。